

は　じ　め　に

北海道優良米生産出荷共励会は、本年度で53回目の開催となり、この間関係の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

平成27年の水稻作況は、全道平均収量が559kg/10a（指数104）で、5年連続の豊作となりました。春先の好天で、圃場の乾燥とともに、水稻の生育は育苗から移植までは順調でしたが、6月上中旬の低温寡照により初期生育が停滞しました。7月も低温が心配されましたが、冷害危険期には強い低温がなく不稔の多発は回避できました。その後の天候回復で平年並の穂数となり、また、出穂期間が高温で経過したため、穂揃いはまずまずでした。登熟前半は高温で経過し順調でしたが、後半は低温が続き登熟が停滞し、成熟期はやや遅れました。登熟前半の高温で粒張りが良く、製品歩留が高くなりました。食味は良好ですが、精米タンパク質含有率は平年並からやや高め、アミロース含有率はやや高めの傾向でした。

また、「ゆめぴりか」「ななつぼし」「ふっくりんこ」の3品種が平成27年産米においても日本穀物検定協会の米の食味ランキングで特Aに評価されました。道内食率については、安価な府県産米の影響により、若干減少したものの、88%の高い食率を維持しています。

一方、TPP交渉の大筋合意、30年以降の米政策の見直しおよび少子高齢化・人口減少による米の需要減少等を受け、米の生産・販売を取り巻く環境は一層厳しさを増しておりますが、北海道米の評価向上に向け、さらなる生産技術の向上を図り、継続した良質・良食味米の安定生産に努めることが重要です。

さて、本年度の共励会については、「移植栽培部門」「直播栽培部門」において合計6件の参加出展を頂き、これらについて1月20日に審査委員会を開催し、部門毎の賞を選考し、2月5日および2月8日に現地調査を行い、各賞を正式に決定致しました。

ここに第53回(平成27年度)北海道優良米生産出荷共励会の審査概要および最優秀賞受賞の方々の米作りと経営についてご報告しますので、平成28年産以降の良質・良食味米安定生産の参考にご活用頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本共励会の実施に当たり多大なご協力を頂いた関係各位に対しまして、改めてここからお礼申し上げます。

平成28年3月

一般社団法人 北海道米麦改良協会